

教科		科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業		キャリアアップC	1	2	選択	講義	演習	実習	その他
						○	○		
教材費・準備物等				進路・資格・興味・関心など					
検定受験料及び模擬問題集購入代金				全国商業高等学校協会ビジネス文書実務検定Ⅰ級 経営、商学系大学等への進学希望者、企業への就職希望者。					
科目概要	・ 文書作成ソフトウェアを活用し、文字入力の基礎を身につける。 ・ 文書の基礎知識を身につける。 ・ 機械および機械操作に関する知識 ・ 文書作成ソフトウェアを活用し、タッチメソッドを身につける。 ・ 文書作成能力の向上を図る。			評価観点	知識技能	与えられた文章を正確に早く打つことができる。文書作成ソフトウェアの機能を用いてビジネス文書を作成することができる。ビジネス文書作成に必要な基礎知識が身についている。入力に欠かせない文書読解力が身についている。			
					思考判断表現	文書作成ソフトウェアの機能を理解している。早く正確に入力するために、文節変換を意識して操作でき、適切に活用できる。文書作成ソフトウェアを用いて、文書を効率よく作成できる。文書作成ソフトウェアの機能を理解し、用途に応じた内容の文書作成ができる。文書作成において、適切な表現を用いる技術が身についている。			
					主体的態度	文書作成ソフトウェアの活用に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指し意欲的に取り組んでいる。文書作成を通してソフトウェアの活用方法を実践しようと努力している。文書作成の意義や役割について理解している。文書作成の基礎知識を、作成に主体的に活用しようとしている。			
				評価方法	定期考査、速度記録、授業態度、提出物などにより評価を行う。				
前年度履修すべき科目		キャリアアップB							
継続で履修すべき科目		なし							

教科	科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業	ビジネススキル	3	2	選択	講義	演習	実習	その他
					○	○		
教材費・準備物等			進路・資格・興味・関心など					
問題集、電卓 検定受験料及び模擬問題集購入代金			全国商業高等学校協会ビジネス計算実務検定Ⅰ級、経営・ 商学系大学等への進学希望者、企業への就職希望者					
科目概要	1 単利の計算		評価観点	知識技能	単利計算・手形割引・仲立人の手数料・減価償却費（定額法）など、ビジネス実務計算能力の基本的な知識と技術を身に付ける。			
	2 手形割引の計算			思考判断表現	建値・売買損益・複利計算・証券投資の計算・減価償却費（定率法）など、ビジネス実務計算能力の発展的な思考力を身に付ける。			
	3 売買・損益の計算			主体的態度	主体的に問題演習に取り組むことで授業に参加し、理解を深める意欲を持って単元別テストにも臨む。			
	4 複利の計算		評価方法	定期考査、単元ごとの小テスト、授業時での取り組み、提出物などにより評価を行う。				
5 減価償却費の計算								
6 複利年金の計算								
7 証券投資の計算								
前年度履修すべき科目		キャリアアップA						
継続で履修すべき科目		なし						

教科	科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業	ソフトウェア活用	2	2	必修	講義	演習	実習	その他
					○	○		
教材費・準備物等			進路・資格・興味・関心など					
教科書、副教材 検定受験料及び模擬問題集購入代金			全国商業高等学校協会情報処理検定2級、経営、商学系大学等への進学希望者、企業への就職希望者。					
科目概要	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 SQLの操作 1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護 5章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎		評価観点	知識技能	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
				思考判断表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。			
				主体的態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			
			評価方法	定期考査、単元ごとの小テスト、授業時でのワークシート、提出物などにより評価を行う。				
前年度履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		なし						

教科		科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業		マーケティング	2	2	選択	講義	演習	実習	その他
						○	○	○	協働・創造・地域連携
教材費・準備物等				進路・資格・興味・関心など					
タブレット（生成AIソフト） 教科書				お客様（消費者や地域社会）と商品をどのようにつなげるかを考える内容なので、進学・就職のどちらの希望者にとっても有意義な科目です。					
科目概要	・社会の変化とともにビジネスの考え方も変わることを理解しましょう。 ・社会の要望を把握する手段を学びましょう。 ・自社の商品と顧客をつなげるために、地域や性別や年齢層などを細かく絞りましょう。 ・自社の商品が市場でどのような立場にあるのか理解しましょう。 ・NAGAZONの商品を使って実践してみましょう。 ・NAGAZONの商品について、商品計画から広報、販売計画まで立案しましょう。 ・販売実習を通して実践しましょう。 ・取り組んだ結果について振り返りましょう。			評価観点	知識技能	授業で学んだ用語について理解しましたか。 授業で学んだマーケティングの分析手法が身につきましたか。			
					思考判断表現	授業で学んだ用語を使って考えを表現することができましたか。 きちんと理由をつけて計画から実践まで取り組むことができましたか。			
					主体的態度	休まずに授業に参加しましたか。 楽しく積極的にマーケティングの知識や技能を得ようとしていましたか。 自ら進んで演習や実践に取り組みましたか。			
					評価方法	確認テスト、定期考査 演習内容、授業内発表、実践 提出物			
前年度履修すべき科目		なし							
継続で履修すべき科目		なし							

教科	科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業	原価計算	2	2	必修	講義	演習	実習	その他
					○	○		
教材費・準備物等			進路・資格・興味・関心など					
教科書、副教材、電卓 検定受験料及び模擬問題集購入代金			全国商業高等学校協会簿記実務検定Ⅰ級または、日本商工会議所簿記検定Ⅱ級 経営、商学系大学等への進学希望者、企業への就職希望者。					
科目概要	1. 原価と原価計算 ア 原価の概念 イ 原価計算の特色と仕組み 2. 原価の費目別計算 ア 材料費の計算 イ 労務費の計算 ウ 経費の計算 3. 原価の部門別計算と製品別計算 ア 個別原価計算と製造間接費の計算 イ 部門別個別原価計算 ウ 総合原価計算 4. 内部会計 ア 製品の完成と販売 イ 工場会計の独立 ウ 製造業の決 5. 標準原価計算 ア 標準原価計算の目的と手続 イ 原価差異の原因別分析 6. 直接原価計算 ア 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 イ 短期利益計画への活用		評価観点	知識技能	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
				思考判断表現	原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。			
				主体的態度	企業会計に関する法と基準を適切に適用する力及び自ら原価計算について学ぶ態度や組織の一員として役割を認識して当事者としての意識をもち、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			
				評価方法	定期考査、単元ごとの小テスト、授業時でのワークシート、提出物などにより評価を行う。			
前年度履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		なし						

教科		科目	単位数	開講学年	必修/選択	授業形態			
商業		財務会計Ⅰ	2	2	選択	講義	演習	実習	その他
						○	○		
教材費・準備物等				進路・資格・興味・関心など					
教科書、副教材、電卓 検定受験料及び模擬問題集購入代金				全国商業高等学校協会簿記実務検定Ⅰ級、日本商工会議所簿記検定Ⅱ級、経営学・商学系大学等への進学希望者、企業への就職希望者					
科目概要	第Ⅰ編 財務会計の基礎 ア 企業会計原則と企業会計基準 第Ⅱ編 貸借対照表 ア 資産の意味、分類と評価 イ 負債の意味と分類 ウ 純資産の意味と分類 エ 貸借対照表の作成			評価観点	知識技能	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
					思考判断表現	企業会計に関する法規と基準、会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし、根拠に基づいて創造的に課題に対応している。会計的側面から企業を分析する力を身に付けている。			
					主体的態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			
				評価方法	定期考査、單元ごとの小テスト、授業時でのワークシート、提出物などにより評価を行う。				
前年度履修すべき科目		簿記							
継続で履修すべき科目		財務会計Ⅰ							